

第42回 香芝市地域公共交通活性化協議会

日時：令和3年5月28日（金）

午後2時30分より

場所：香芝市ふたかみ文化センター

1階 市民ホール

1. 開会

会長：お忙しい中、ご出席いただき感謝申し上げます。日ごろより、地域公共交通施策をはじめとする市行政への深いご理解・ご協力をいただき重ねて感謝申し上げます。新型コロナウイルスの収束が見えない中、本市でもワクチンの集団接種が始まった。集団接種のための移動手段の確保に努めたい。具体的には、香芝市が運営する交通サービスやタクシーを対象とした共通利用券の配布を行うことで、接種率の向上を目指すとともに地域公共交通の利用促進にもつながる取組みとしたいと考えている。今年度は、昨年度に策定した香芝市地域公共交通計画に基づき、進めていくことになる。特に、香芝市が運営する地域公共交通の運営の見直しについて、議論をいただくことになる。市民生活に密接にかかわる項目であり、忌憚のない意見をお願いしたい。

（各委員の紹介）

（協議会成立の報告（委員24名中、出席17名））

2. 報告事項

（1）香芝市コミュニティバス・タクシー共通利用券交付事業について

委員：ワクチン接種会場までの交通手段がないことが他都市でも問題になっている。その点、とても良い取組みである。改めて確認であるが、ワクチン接種以外の目的でも利用できるのか。また、高齢者の接種が終わった後、以下の世代の接種時にも同様の支援を考えているか。

事務局：共通利用券については、利用目的を制限することが難しい。そのため、ワクチン接種の際に使っていただくことを想定しつつ、それ以外の目的でも利用できる仕組みとした。また、この取組みは、移動手段の確保が難しいことが指摘される高齢者への支援を前提としたものであり、今後、以下の世代のワクチン接種時には、特段の支援は現時点では考えていない。

（2）デマンド交通におけるキャッシュレス決済の導入について

一同：質疑・意見なし

(3) その他

委員：アンケートを実施された「ふたかみクラブ」とはどのような組織か。香芝市に在住する香芝市の高齢者を代表する意見群として取り扱うことが可能なものか。アンケートの実施主体は、「ふたかみクラブ」か、それとも香芝市か。また、アンケート結果をどのように活用されるかもお聞きしたい。

委員：60歳以上を会員とするふたかみクラブとして、実情を把握し、今後の取り組み方や目標を決めていきたいとの趣旨でアンケートの実施となった。高齢者の引きこもりなどを防ぐ視点なども含め、市の公共交通機関を活かしていきたいと考えている。

議長：ふたかみクラブの会員について、特徴等をお聞かせいただきたい。

委員：会員は3,200人程度である。100歳まで元気に活動できることを目指している組織である。

議長：事務局から、アンケートの主体や目的について、お聞かせいただきたい。

事務局：アンケートについては、「ふたかみクラブ」に協力いただく形で市が実施したものである。また、市が運営する地域公共交通の利用割合の高い高齢者にフォーカスし、持続可能な公共交通施策を考えるために実施したものである。

3. 議題

(1) 香芝市地域公共交通活性化協議会規約改正（案）について

議長：意見があれば、願います。

議長：質疑・意見がないようであれば、この改正を承認するものとしたい。

委員各位：異議なし

議長：承認されたものとする。

(2) 令和2年度香芝市地域公共交通活性化協議会決算について

議長：監査委員より、会計監査に関する報告をお願いしたい。

委員：会計監査を行った結果、適正であったことを報告する。

議長：意見があれば、願います。

委員：歳入について、奈良県からの補助金の目的と用途をお聞きしたい。歳出をみると、補助金がないと成り立たないようにも見える。あわせて、ご説明いただきたい。

事務局：補助金について、地域公共交通計画の更新・履行を目的に補助金の交付を受けている。用途については、外部への委託先への支払いになっている。ただし、この補助金がなかった場合でも、市の予算から、調査業務として確保する見込みとなっていた。

委員：用途について、地域公共交通計画の更新・履行に充てられていると聞いており、こちらが意図するものと相違ない。なお、他自治体でも同様に運用いただいているものである。

委員：協議会が立ち上がって時間も経ち、運営方法等が確立されているなかで、調査業務において、これだけの予算を支出する必要はあるのか。市の職員のみで対応できるのではないか。外部委託をすることで、どのような取組みがなされたかを教えていただきたい。

事務局：地域公共交通計画の策定にあたり、令和元年度、2年度の2か年において、既存データや利用実績の分析、市民や利用者アンケートの実施などにおいて、支援を得た。

議長：ご指摘のとおり、市内部でできる部分もある。一方で、アンケート1つにとっても、調査計画を立てて、専門的な知見が必要である。地域公共交通計画の策定にあたっては、専門的な知見が含まれている。コロナ禍において、地域ニーズの把握方法の提案なども含め、柔軟な対応によって、成果・計画に反映されたと認識している。

委員：SPSS など、香芝市でも統計的な分析ができる技術を内製しようとしてきた。要因分析なども含め、きめ細やかな分析を行うためにも、内部でできるものは内部で行い、補助金の用途として認められる範囲で、アンケートなど、市民ニーズの把握に予算をかける方法もあるのではないか。

議長：SPSS は学術的にも活用するツールであるが、一方、学生に教えるうえでも、容易に使いこなせるものでないことも事実である。そのなかで、事務局の負担も一定以上であろうということも考えられる。また、提案のあった要因分析であるが、学術的には理解できるが、行政の調査では、直接的な結果が求められる中で、そこまでの分析が求められない部分もある。また、傍目に見ていても、今回の外部委託先にあたっては、地域への積極的な意見収集など、それぞれの取組みについて、丁寧な対応がなされていたことを確認している。

議長：ほかに質疑・意見がないようであれば、この決算を承認するものとしたい。

委員各位：異議なし

議長：承認されたものとする。

(3) 市が運営する地域公共交通の運行見直しについて

議長：ご意見をお聞きしたい。

委員：事務局案のうち、B案が良いと思う。ワゴンタイプとすることで、どの程度費用が変わるのかをお聞きしたい。

事務局：概算ではあるが、ワゴンタイプの場合、年間1台あたりの費用として50～60万円を想定している。マイクロタイプについては、年間1台あたりの費用として120万円であり、そのものでは安価となる。一方で、ワゴンタイプとマイクロタイプそれぞれに予備車を有する必要があるため、マイクロタイプのみを保有する場合に比べ、1台多く所有する必要がある。そのため、マイクロタイプのみを保有する場合と比べ、トータルでは年間100万円程度の差に留まる見込みである。また、人件費については、車両1台増やすことによって、交代要員も含め2名増員となり、1,600万円程度の増加となる。以上を踏まえると、トータルで見ると、A～D案で費用について、大きな差は出ない見込みである。

委員：コミュニティバスについては、以前に廃止する意見も出ていた。その後、住民意見も含め、存続・改善が図られてきた。その後、利用実態等を検証したうえで、改めて廃止も含めて結論を出すことになっていたかと思う。利用実績に基づき、費用対効果だけをみると、公共的な事業として不公平があるとの結論も過去にはあった。その中で今回、要望事項に対応して、車両やサービスの強化を図る趣旨をお聞かせいただきたい。

議長：今回の事務局案は、昨年度の議論で蓄積されてきたものでもある。コミュニティバスを廃止して、デマンド交通に置き換えるというような案もあったが、タクシー事業者への負担などから、コミュニティバスとデマンド交通の併用を前提とした運行見直しが考えられている経緯かと思う。その中で、車両更新のタイミングを迎える中で、運行見直しを行うにあたって、地域の要望に応じていこうとするとコストアップになっているところである。1点確認であるが、現在議論しているのは、令和5年度の本格運行に向けた実証運行のためのものという位置づけで問題ないか。そのうえで、実証運行を通じて、本格運行に向けて、再検討を進めていくという考え方でよいか。研究者として言いづらいが、買物や通院などを目的とする今回のような利用者の需要は推計では当てられない。実証運行をしながら、PDCAを回していくことが重要であり、地域公共交通計画でもそのような流れだったかと思う。

事務局：実証運行から本格運行の流れに関する考え方については、議長にお話しいただいた内容のとおりである。一方、コミュニティバスの利用状況については、有償化後、実際の利用者数は減少傾向である。利用者の大半が高齢者である中で、買物や通院、市の講座などの利用が多くを占めている。市民の声を聞く中で、「利用したいが本数が少なく、利用できない」という声がある。

委員：利用者は以前より減っているということである。提示された案を選ぶことは可能である。そのうえで実証運行は必須であるが、実証運行のために車両を買うのは議会の承認を得られないと思う。実証運行にあたって、明確な方向性がある。

議長：10年間の償却期間を見据え、購入することになる。レンタルでは無理という理解で問題ないか。

委員：有償運送になるため、レンタル車両では不可である。香芝市が所有権を有した状態の車両で運行してもらうことになる。

事務局：今後の進め方については、活用できる車両を決定してから、その車両でどのように運用するかを考えていきたい。

委員：車両を決めてから、ルートを決めるということであるが、検討事項が多いのではない。議会を代表して参加している立場としても、もう少し議論する時間がほしい。

議長：事務局の想いとして、方向性を決めて、今後の検討につなげていくものだと思う。

委員：コミュニティバスの方向性を定めないと、意見も集約されていかない。事務局として、存続するための方向性を示していただきたい。

議長：いろいろな意見がある中で、地域の生活を支えたいということは、みなさんの総意か

と思う。利用者数は減っているとはいえ、デマンド交通では対応できない利用者がいる。コミュニティバスを残していかざるを得ないと考えている。とはいえ、車両については、更新のリミットを迎える中で、車両や費用を増やす根拠・考え方をしっかり明確にしたうえで、どのようにしていくか、方向性を決めていく必要がある。

事務局：地域公共交通計画を策定する中で、今後5年間については、デマンド交通とともにコミュニティバスを続けていくことで合意を得たと考えている。その中で、車両の老朽化を踏まえ、車両の更新、ルートの見直しを諮っている段階である。なお、無料の公共バス時代は、現在よりも1台多い4台で運行されており、利用者から不便になったという声に対応したいと考えている。

議長：現状どおりも含め、事務局案から候補を選ぶことが望ましいか。

委員：コミュニティバスを住民の要望どおり広げていくということは限界がある。大きな目標を確認してから議論を始めたほうが良いかもしれない。コミュニティバスが無くなると、デマンドやタクシーが逼迫すると思う。タクシーは移動のための最後の砦であり、共存の上、利用できる環境を確保しておく必要がある。コミュニティバスについては、費用だけで評価するものではない。例えば、アンケート結果でも、コミュニティバスを利用しない人は「家族や知人」に送迎してもらっている人が多いが、それは、家族や知人の負担や、本人の時間制約などが考慮されるべきである。地球温暖化の視点から、自家用車から地域公共交通にシフトさせていく視点であったり、外出機会の創出による効果なども見ていく必要がある。また、議長の問いかけに対する回答であるが、サービスを拡充しないということも含めて、皆さんに案を選んでいただいたほうがいい。なお、住民の方の意見を聞いていくと、サービスを拡充せざるを得なくなるが、かえって運行路線長が長くなり、運行頻度を下げなくてはいけなかったり、目的地への到達時間が延びるなど、利便性が下がるリスクもある。運行見直しにあたっては、運行前に見直しのルール・基準を決めておく必要があるのではないかと。城陽市の場合、1便あたり3人などの基準を設け、その基準を満たさなければ、維持できない、基準をクリアすれば、より便利にするなどの工夫が必要だと考える。こういったものを決めたうえで、ホームページなどで市民の方がいつでも見えるようにしておくことが大事だと思う。

委員：当初、デマンド交通の導入目的は、地域福祉計画に基づくものであった。その中でコミュニティバスをなくすという案もある中で、ルートを見直しながら維持してきた。その中で、検証を行わず、新たに見直すということは、受益者負担の考え方も含め、財源が厳しい中で難しいと思う。案として、地域ニーズに照らし合わされており良い部分もあると思うが、議会としても、安易に受け入れられないと思う。議論にもう少し時間があるのではないかと。

議長：事務局に確認するが、皆さんの意見をふまえると、「今回、案を絞る」もしくは「今回は結論を見送り、今後、書面協議等で議論を詰める」案のどちらが望ましいか。

事務局：再度、案を練ったうえで、7月ごろに協議を諮らせていただきたい。その後、素案等

を作成し、書面開催も活用しながら、議論を深めていきたい。

議長：今後の議論にあたり、なぜ車両を増やす考えが出ているのか等、考え方の前提をもう一度説明していただけるか。

事務局：田尻バス停の折り返しスペースが使いえなくなる見込みであり、田尻バス停を通過する運行形式となり、ルートを延長する必要がある。また、現在のダイヤそのものがタイトであり、遅延が発生していることも聞いている。安全かつ定時運行する中で、現状のサービスを維持するためにも車両の追加がいるという中で、ルートの見直しを提案したところである。

議長：次回は当初の予定を前倒し、7月に実施する。その際には、今後の公安協議等の時間の確保も考慮し、運行計画につなげるためのご意見をいただきたい。香芝市の地域公共交通計画を考えるうえでは、コミュニティバスとデマンドの使い分けを考えながら、どこに力を入れるか、コミュニティバスのルートを強化するところを決めていく必要があると思う。

4. 閉会